

# 仙台都市圏交流基盤に関する懇談会

## 第3回懇談会 議事録



第3回懇談会では、委員11名の参加を得て、仙台都市圏の交流活性化に関する意向調査結果や、仙台都市圏のあり方の検証と課題について意見交換を行いました。

【日時】平成17年12月13日(火)15:00~  
【会場】三井アーバンホテル仙台

### プログラム

1. 開会
2. 懇談会委員の紹介
3. 資料説明
4. 意見交換
5. 閉会の挨拶

### 【懇談会委員】

(敬称略：五十音順)

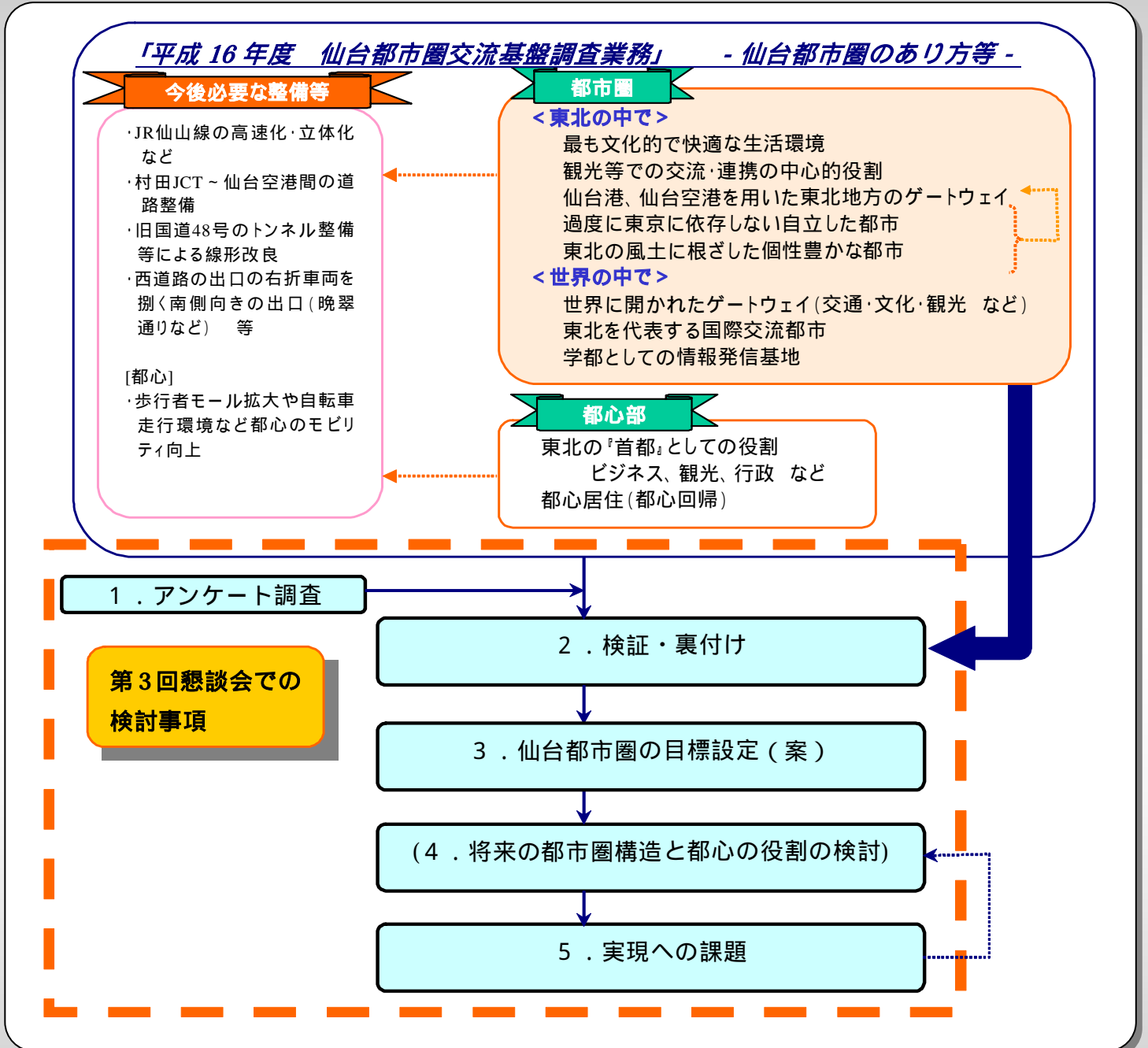
氏名	所属・役職等	備考
稲村 肇	東北大学大学院情報科学研究科 教授	
小野 晋	(社)東北経済連合会 地域政策グループ 部長	
菅原 通孝	弁護士	
高橋 建夫	セコム(株)東北支部 顧問	
谷澤 晋	仙台市都市総合研究機構 理事長	
徳永 幸之	東北大学大学院情報科学研究科 助教授	
藤野 章	(社)東北建設協会 監事	
藤本 俊郎	(有)宮城県道交サービス代表取締役社長	
間庭 洋	仙台商工会議所 常務理事事務局長	
森杉 壽芳	東北大学大学院情報科学研究科 教授	座長
吉越 治雄	(社)東北建設協会 相談役	

### 【事務局】

氏名	所属・役職等	備考
佐々木洋治	(社)東北建設協会 技師長	事務局長
永澤 新作	(社)東北建設協会 情報管理部長 みちのく国づくり調査室長	
真田 博	(社)東北建設協会 みちのく国づくり調査室	
伊藤 真彦	(社)東北建設協会 道路事業部	

検討テーマ：仙台都市圏のあり方の検証と課題抽出の流れについて

第2回懇談会のまとめより



## 検討テーマ：仙台都市圏のあり方 1. 最も文化的で快適な生活環境

### 意向調査結果

仙台市民が目指す将来像は、「杜の都」「環境都市」「文化芸術都市」  
 仙台市民や県外団体は不足する交流基盤として音楽ホールと劇場を指摘。

### 検証

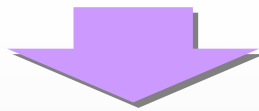
仙台の人口密度は東北の中で一番高く、人口1人あたりでいえば、コンパクト性は高い。  
 仙台は近年プロ野球、プロサッカーチームができ、スポーツ観戦機会に恵まれている一方、文化関係  
 では、2000席以上の大きな文化ホールがない。

### 仙台都市圏の目標設定(案)

東北人、仙台市民団体のイメージとして一番高い「杜の都」の維持・向上に努める。  
 東北の拠点都市として、人材定着の基盤としての環境都市を目指す。  
 イベント・文化活動を引き続き展開するとともに、世界的な公演を呼べる場の確保に取り組む。

### 課題

仙台市民の意識として「杜の都」を実感できる機会が減ってきており、仙台市が推進している「100  
 年の杜構想」と合わせ、さまざまな機会に「杜の都の再生」に取り組むことが必要である。  
 環境配慮型の都市形成のため、引き続きコンパクトな都市づくりと、渋滞がなく移動性の高い都市交  
 通モビリティ形成に取り組むことが必要である。  
 都心部の街路空間などにおける文化・芸術活動の支援をするとともに世界的アーティスト、文化公演  
 を呼べる規模の文化ホール建設について検討する必要がある。

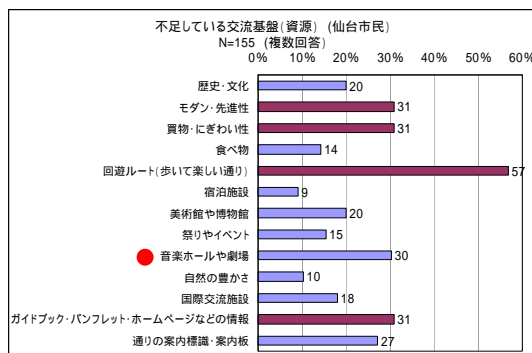


### 意見交換（最も文化的で快適な生活環境を形成するための目標・課題）

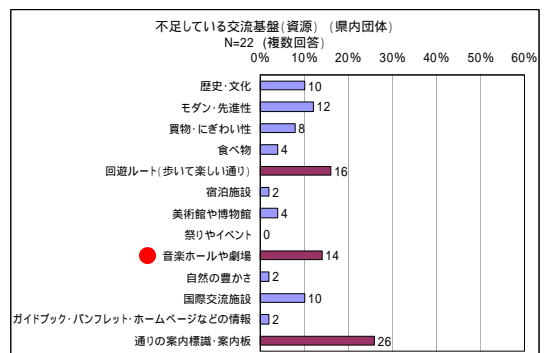
国際交流都市機能を強化するためには、国際級のホテルが必要である。  
 都市圏のあり方を総合的に論じるより、実現の手法を示すことが重要である。  
 国際交流機能を導入する場所としては、東北学院や仙商跡地が周辺のホテルや国際センターと連携する  
 ことにより候補となりうる。

[参考データ: 意向調査結果]

#### ● 仙台市民や県内団体は不足する交流基盤として回遊ルートの他に音楽ホールと劇場を指摘



東北全体のイメージについて(仙台市民)



東北全体のイメージについて(県内団体)

## 検討テーマ：仙台都市圏のあり方 2. 観光等での交流、連携の中心的役割 (東北を代表する国際交流都市)

### 意向調査結果

個人・団体とも東北は「国際交流が弱い」との意識である。  
観光客の誘致は重要視されている。

### 検証

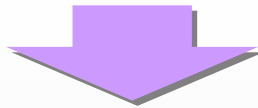
東北の自然資源数と温泉数は日本一である。  
東北ブロックへの外国人訪問率は非常に低い。  
東北は外国人を呼べる拠点都市・観光地が少ない。

### 仙台都市圏の目標設定(案)

交流人口の拡大を東北の活性化の鍵ととらえ、仙台都市圏は、その中心的役割を果たしていく。  
訪日外国人数は全国で 1000 万人を目標としており、東北はその内 7.6%(居住人口比)を目標にしたい。

### 課題

東北ブロックは自然資源数と温泉数は国内随一を示すが、観光拠点となる都市が少なく、仙台を筆頭に観光交流の拠点都市を育成する必要がある。  
観光交流における訪問地は、特に行政区域にとどまらないことから、今進んできている仙山交流連携や仙台・松島・気仙沼・平泉連携などの動きを育成・支援していく必要がある。  
広域観光、国際観光を推進するためには、仙台都心、仙台空港、仙台港の都市圏内アクセス強化とともに、東北ブロック内の各都市圏間のシームレスな移動を確保する必要がある。



### 意見交換 (観光等での交流・連携の中心的役割を果たすための目標・課題)

仙台を含め、東北は観光のPR、プロモーション活動が不足している。  
仙台で外国人観光を促進することのネックとなっていることの1つに買物(免税店)をすることがないことがある。(例えば、JTBではここ半年で4000人の外国人を仙台に誘致したが、買物は(長町の)モールに連れて行っていった。納豆等が買われていた。)  
ヨドバシカメラでは中国語や韓国語が話せる人がいる。一番町なんかでもそのような店が欲しいし、空港に行く道の途中に道の駅等、外国人がすぐ入れるような施設が欲しい。  
韓国からは、仙台に来てゴルフをして温泉に入っていくのが人気である。  
東北への外国人訪問率が2.6%と資料にあるがチャーター便等入れると5%程度以上は実際来ている。  
観光産業は多くの雇用を発生させるので東北の基幹産業に位置づけ、地域経営の柱の1つとしていくべきである。  
外国人を呼ぶためには「決済システム」をうまく構築することが重要である。  
自然、温泉の他に都市観光が重要である。温泉は台湾の人は好きである。一方、タイの人は入らないなど相手国により差があるので配慮が必要である。

## 検討テーマ：仙台都市圏のあり方

### 3. 仙台港、仙台空港を用いた東北地方のゲートウェイ (世界に開かれたゲートウェイ)

#### 意向調査結果

経済団体は、仙台港、仙台空港から仙台都心へのスムーズなアクセスを希望。

#### 検証

仙台港の取扱量は年間35百万トン、内コンテナは9万TEU

仙台空港の利用者は年間324万人(平成16年度)

海外に出かける東北人の地元空港利用率は30%と低い。また、訪れる外国人の多くが成田を利用。東北発着の国際コンテナは、現在も過半数が京浜地区の港湾を利用。

#### 仙台都市圏の目標設定(案)

仙台港・仙台空港の拠点化(旅客量、取扱貨物量を増やす)

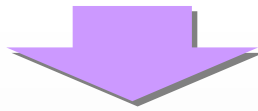
#### 課題

国際的ゲートウェイになるためには、仙台空港は現在の3倍程度の利用が必要となる。

仙台港は、ひきつづき物流コストの低減とともに外貨定期コンテナ航路の充実に取組み、輸送サービス地域の拡充に努める必要がある。

仙台空港は、新たな国際空港路線を充実させるため、利用時間帯の弾力化とともに利用コストの低減化等に取り組む必要がある。

仙台空港は東北域内からアクセスの向上に努め、仙台空港、仙台港の取扱高を高める必要がある。



#### 意見交換 (仙台港、仙台空港を用いた東北地方のゲートウェイとなるための目標・課題)

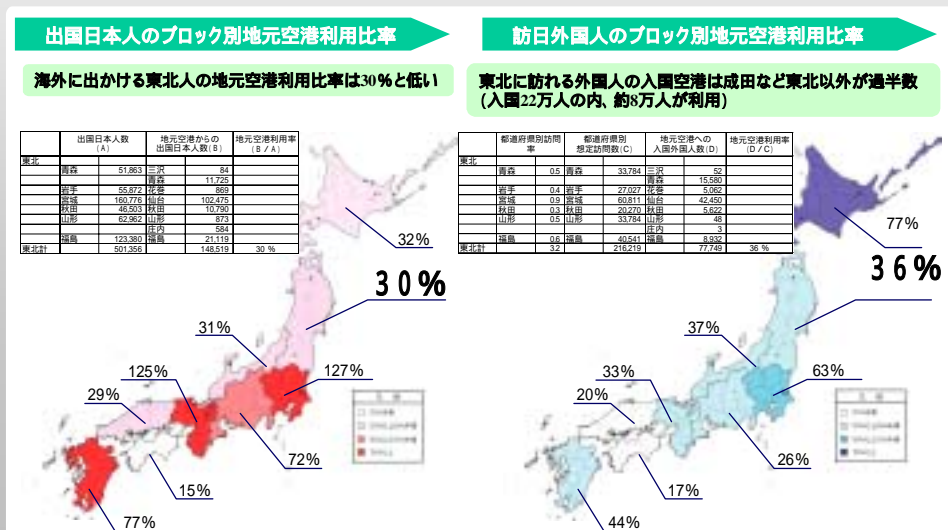
仙台空港は国際線における拠点性を高める必要がある。また、東北各県への配慮が必要である。

仙台空港は国際ゲートウェイということを積極的に宣言すべきである。

アクセス強化に加えて、利用コスト低減など、路線拡大、利用拡大が重要である。

新千歳、福岡空港利用が多い背景には羽田便の多さがあるので比較する場合に留意が必要である。

[参考データ: 仙台空港のゲートウェイ度(ブロック別地元空港利用率)]



## 検討テーマ：仙台都市圏のあり方 4. 過度に東京に依存しない自立した都市

### 意向調査結果

東北の産業経済の発展性についてのイメージはあまり高くない。  
地域産業の振興は重要視されている。

### 検証

東北の実質経済成長率は、全国平均より遅れている。  
経済成長への寄与度を見ると、近年は民間需要、域際収支（輸移出-輸移入）が大きい。  
東北の強みは IT 部品、精密機械、工場立地、エネルギー供給となっている。  
農業については宮城は稲作の割合が高くなっている。

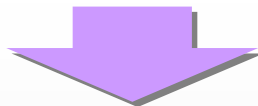
### 仙台都市圏の目標設定（案）

東北の IT 関連産業と連携できる、中小・ベンチャー企業を育成できる産業育成（インキュベーター）都市を目指す。

エネルギー基地、食料基地としての豊富な東北の資源を活用し、付加価値を付けられる都市を目指す。  
米どころ、魚どころ宮城と果物生産が強い東北の各都市と連携し、観光交流の大きな要素としてのおいしい食文化、食産業が集まる都市を目指す。

### 課題

公共投資の伸びが大きい現在、民間需要と地域際収支を伸ばすことが鍵である。  
仙台都市圏における産業集積を高め、その波及効果で東北全体の活力の維持・向上が必要である。



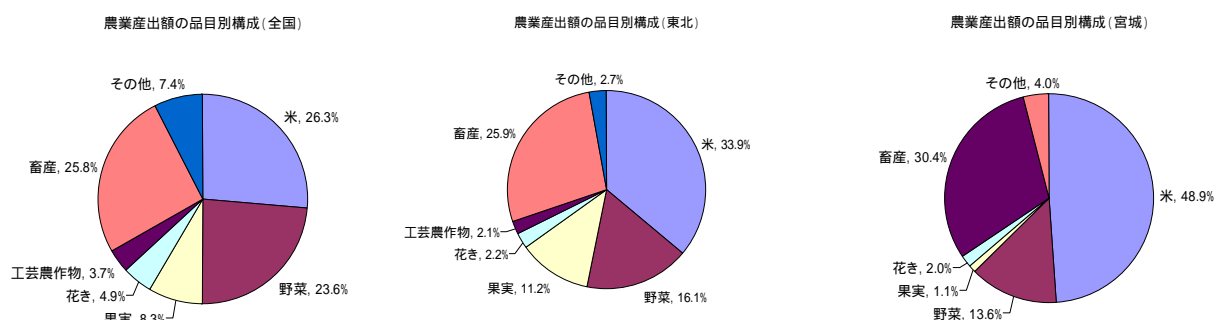
### 意見交換（過度に東京に依存しない自立した都市）

東北は食料基地と昔から言われているが、仙台都市圏の農業は米だけでなく、さらに市場性が高い農業や、観光につながる農業に変わっていく必要がある。

IT 産業は、交流基盤とは関係が遠いので、別のところで議論しても良いのではないかと考える。  
仙台の東口は最近 IT 特区に指定されている。

[参考データ：農業産出額の品目別構成]

#### ● 東北の中でも宮城は稲作の割合が高くなっている



## 検討テーマ：仙台都市圏のあり方 5．東北の風土に根ざした個性豊かな都市

### 意向調査結果

東北のイメージとして、「祭りや伝統行事などの地域文化」が高い。

仙台の魅力として、「七夕や光のページェントなど四季折々の祭り」が高い。

### 検証

仙台の魅力として「祭りやイベント」が高評価になっている。

歴史・文化については、平均的な評価である。歴史・文化の豊庫の東北の拠点都市としてもっと上がっても良いと思われる。

仙台都市圏と山形都市圏とをあわせると東北の3分の1の大学が集まる。

### 仙台都市圏の目標設定（案）

現在、評価の高い個性的な祭り、イベント（七夕祭り・青葉祭り・ジャズフェスタ・光のページェントなど）を活かしながら「杜の都」のイメージを伸ばしていく。

仙台らしい歴史・文化を磨き上げ、観光交流の魅力の要素として育成していく。

仙台都市圏（山形も含む）の大学集積を活かした、知識集約型都市、情報発信が豊富な都市を目指していく。

### 課題

評価の高いイベントの実施空間としての都心の道路空間を有効活用し、「回遊性を持たせる」仕掛けづくりをする必要がある。

歴史・文化を都市の景観の要素として重視し、積極的に「見せる」仕掛けづくりをする必要がある。

歴史・文化を磨き上げ、情報発信していくために、例えば仙台学を研究している市民組織や、東北学を研究している山形の大学と連携を重視していく必要がある。



### 意見交換（東北の風土に根ざした個性豊かな都市となるための目標・課題）

杜の都のイメージを来街者に実感してもらうためには、駅前の看板や建物の色のコントロールが重要。杜の都としてのイメージ形成には街中の定禅寺、上杉通、東二番丁通等の街路の緑が重要である。また、広瀬川と道路をうまくつなぎ、100年かけて建物の景観を整えていきたい。

## 懇談会内容について（まとめと今後の懇談会の方向）

### まとめ

国際交流面では、仙台都心におけるコンベンションや国際級のホテルといったハード面が不足しているといえる。

観光を東北の基幹産業として位置づけ、仙台都市圏でも都市観光に積極的に取り組んでいく。

仙台空港は国際ゲートウェイと宣言して国際線を充実させ、東北ブロック内のアクセスを高めていく。

仙台圏では、都市型農業、観光交流につながる農業を展開していくことが望ましい。

杜の都のイメージを来訪者に実感してもらうことを意識しながら、都心の街路空間、広瀬川や建物の色、形態、看板等のコントロールを行っていくことが望ましい。

### 今後の懇談会の方向

今回は、仙台都市圏のあり方の大きな目標を掲げる視点からの資料、議論であったが、今後の懇談会の中で、より具体的なメニュー、実現方策を検討していく。

今回は、仙台都市圏のエリアの目標の検討を行ったが、次回以降、交流促進の面で重要となる仙台都心エリアの目標設定や改善メニューについて検討していく。



第4回懇談会では、「観光交流」などのテーマに沿った仙台都市圏の交流基盤のあり方について、仙台都心のあり方を含めて、より具体的な議論を行っていく予定です。

第4回懇談会開催予定  
詳細未定



# [資料] 仙台都市圏の交流活性化に関する意向調査結果（調査概要）

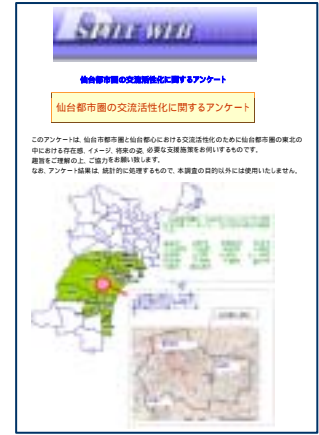
## 個人

### < 調査依頼 >

東北6県在住で仙台に1回以上来たことのある人 1,000人

### < 質問構成 >

1. フェイス
  2. 仙台都市圏の現状認識
  3. 将来の期待
  4. 東北のイメージと自由意見
- 等



## 団体

### < 調査依頼 >

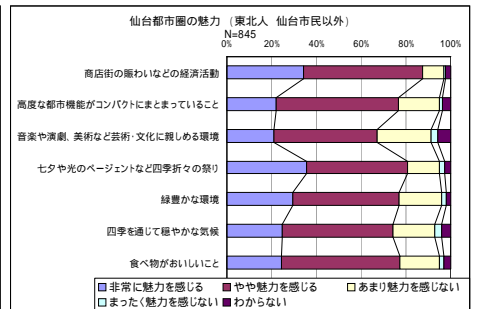
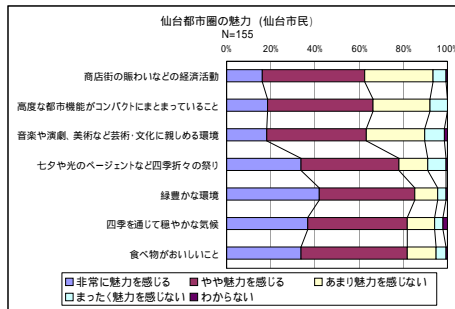
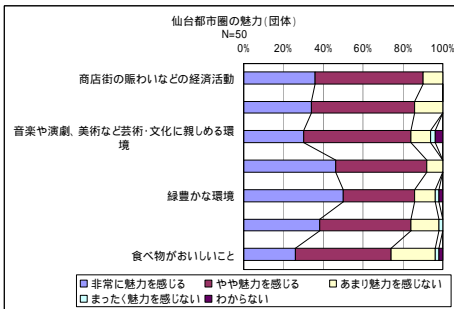
東北ブロック内商工会議所	46 団体
宮城県内商工会	41 団体
東北ブロック内観光交流協会(連盟)	10 団体

< 回収率 (12月12日現在) >  
53 団体 / 97 団体

# 仙台都市圏の交流活性化に関する意向調査結果（概要）

## 仙台都市圏の魅力について

「七夕、光のページェントなど四季折々の祭り」、「緑豊かな環境」の評価が高い  
団体は、他より「七夕や光のページェントなど四季折々の祭り」の評価をする割合が高い  
東北人、団体は商店街の賑わいを評価している

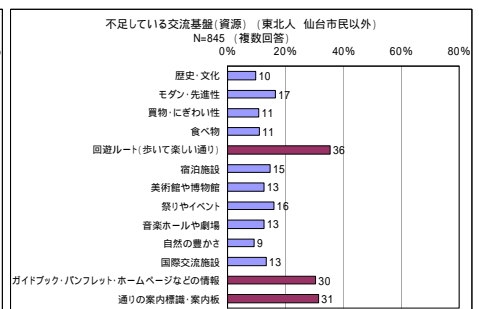
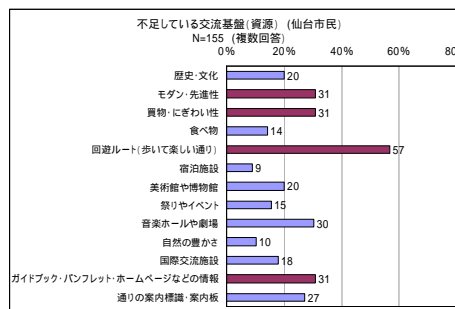
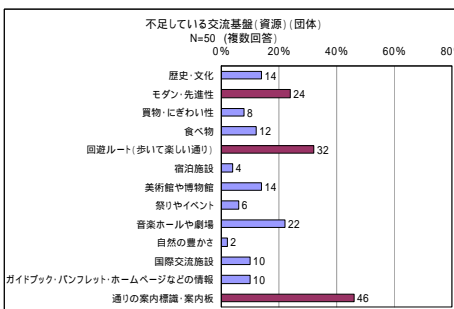


## 不足している交流基盤

全体として「回遊ルートが不足」の指摘が多い

団体は「通りの案内標識・案内板」が不足しているとの指摘が多い

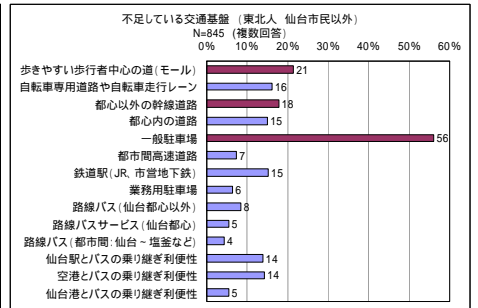
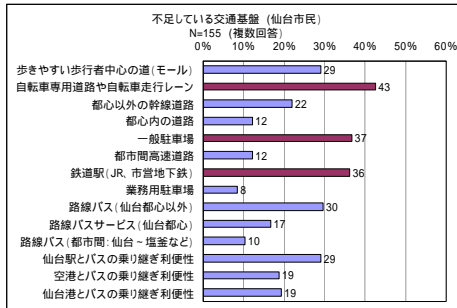
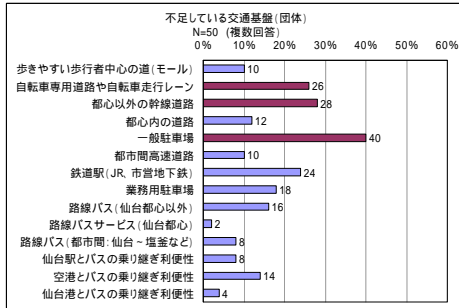
個人は「ガイドブック・パンフレット・ホームページなどの情報」について不足との声がある



## 不足している交通基盤

全体として「一般駐車場」、「自転車専用道路や自転車走行レーン」、「都心以外の幹線道路」が不足との声が多い

個人は「歩きやすい歩行者中心の道（モール）」が不足との声がある



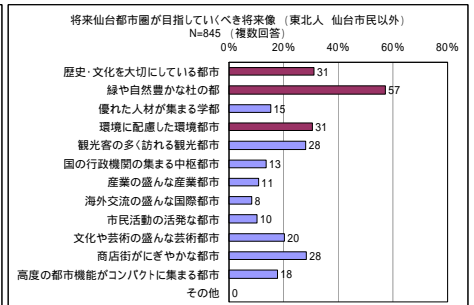
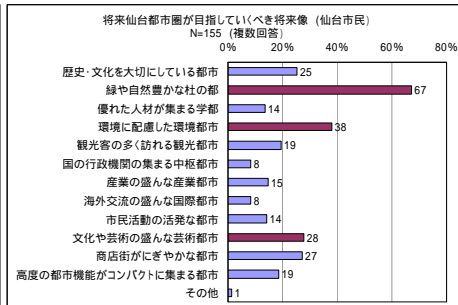
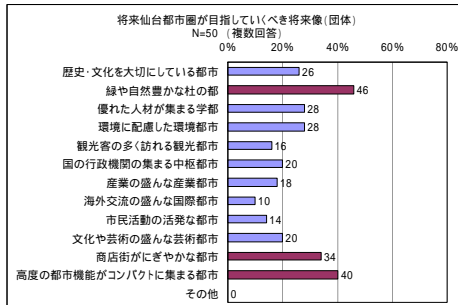
## 仙台都市圏の交流活性化に関する意向調査結果 (概要)

### 将来像

全体として「緑や自然豊かな杜の都」の回答が多い

団体は「商店街がにぎやかな都市」「コンパクトな都市」が多い

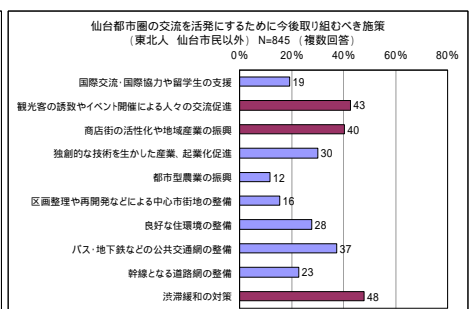
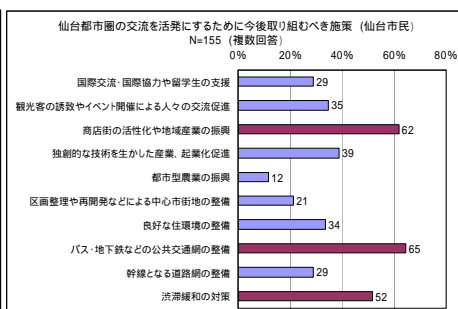
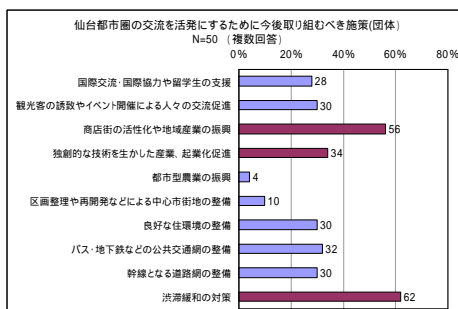
仙台市民は「芸術都市」「環境に配慮した環境都市」をあげている



### 今後取り組むべき施策

全体として「渋滞緩和の対策」、「商店街の活性化や地域産業の振興」が多い

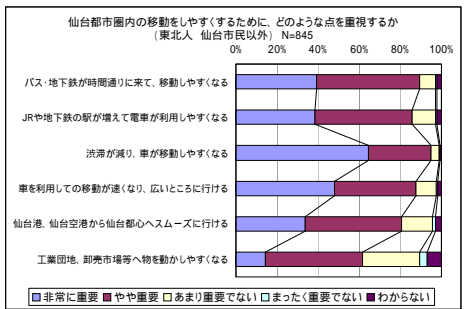
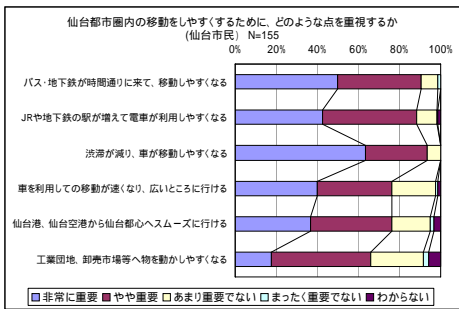
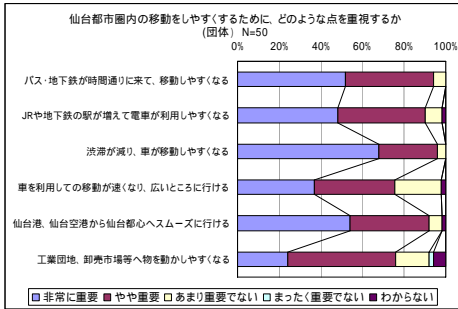
仙台市民は「公共交通の整備」をあげる意見が多い



## 移動性向上に重視する点

全体として「渋滞が減り車が移動しやすくなる」ことが非常に重要」という声が多い

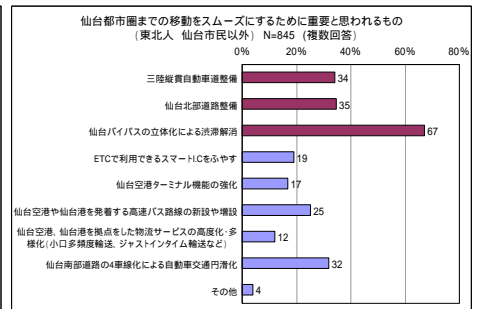
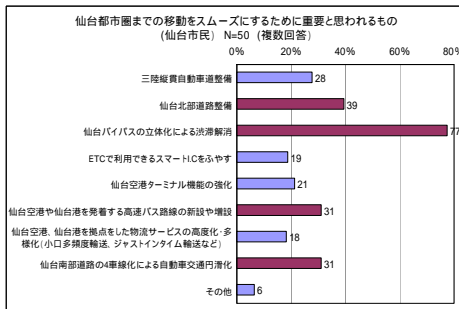
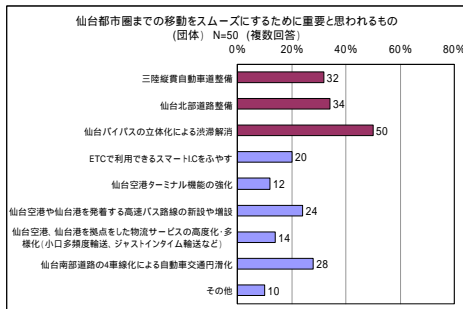
団体は「仙台港、仙台空港から仙台都心へスムーズに行ける」ことを重視している率が高い



## 仙台都市圏の交流活性化に関する意向調査結果 (概要)

### 都市圏までの移動で重要と思われるもの

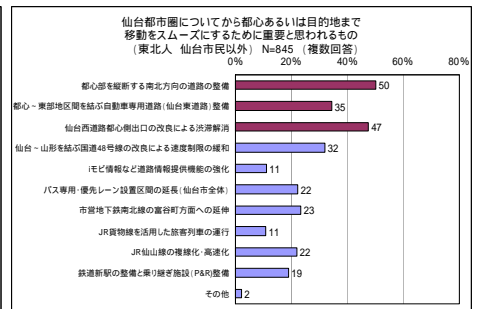
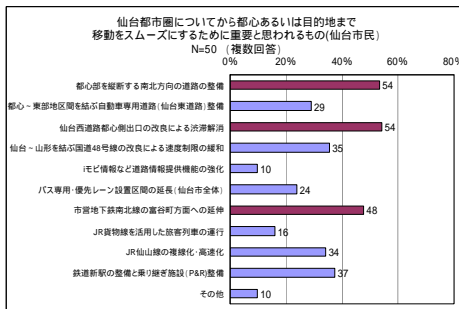
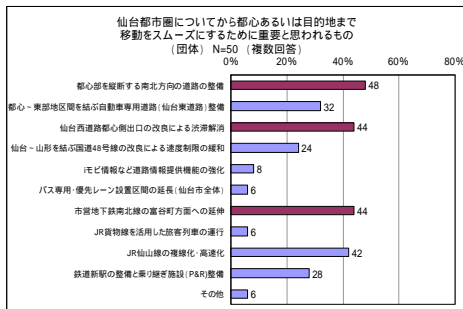
全体として「仙台バイパスの立体化による渋滞解消」、「仙台北部道路整備」、「三陸縦貫自動車道整備」が多い



### 都市圏についてからの移動で重要と思われるもの

全体として「都心部を縦断する南北方向の道路の整備」、「市営地下鉄の富谷町方面への延伸」、「仙台西道路都心側出口の改良による渋滞解消」、「仙台東道路整備」が多い

特に団体は「地下鉄の富谷延伸」、「JR 仙山線の複線化、高速化」、東北人は「仙台東道路整備」をあげている



### 自由意見

仙台は東北の中核都市、東北のリーダー、ゲートウェイとしての役割が多いに期待されている